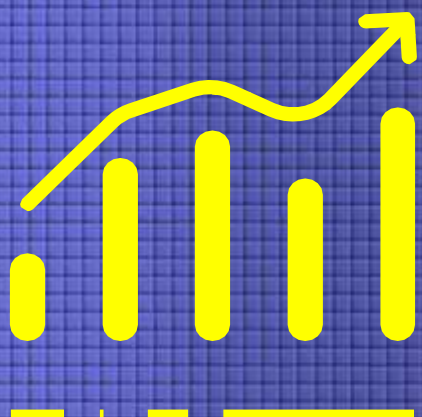


■ 地域内需要動向調査

～ 道の駅たかの販売データ分析より～

【前期報告】



【調査時期】

2023年1月～6月



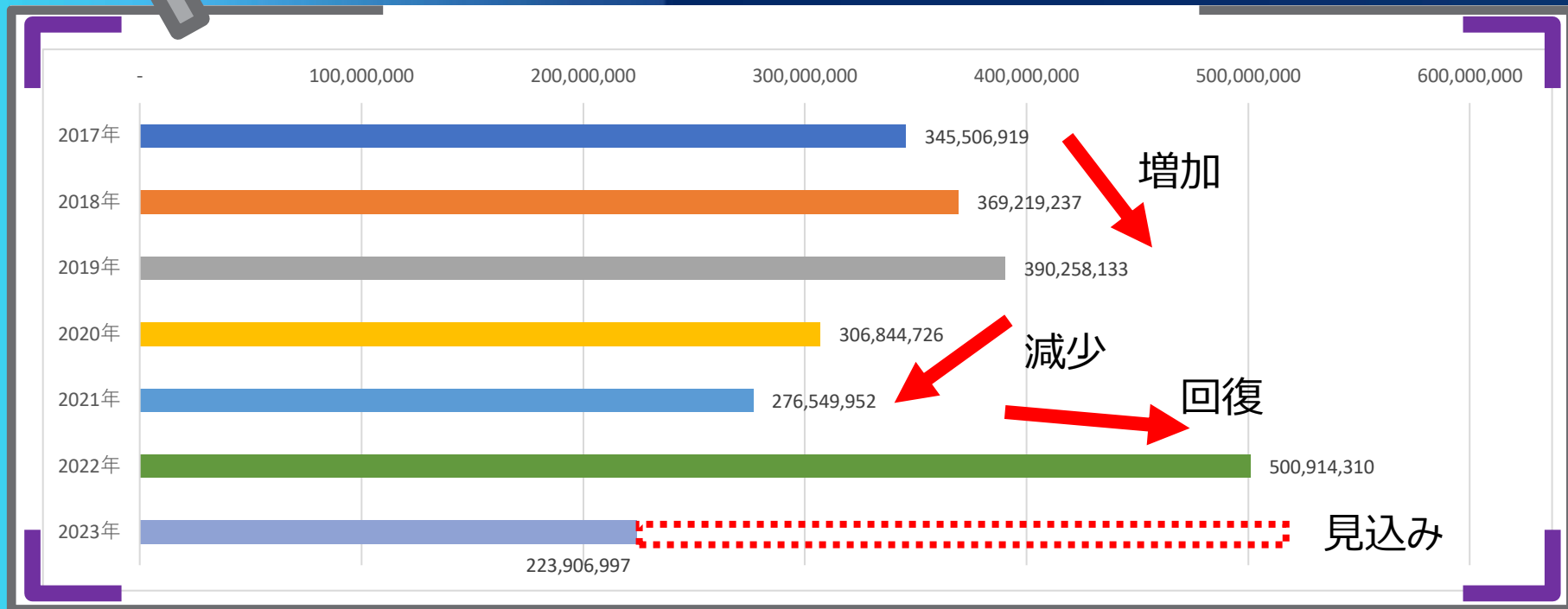
1.道の駅たかのについて

- 自然豊かな広島県最北端のまち、庄原市高野町にある「道の駅たかの」。庄原市の北の玄関口として、人・モノ・情報の交流拠点として運営中
- 地元農産物や安心・安全にこだわった加工品である「高野の逸品」、豊富な山の幸を活かした食事や観光情報など、高野の魅力が詰め込まれた「旅の拠点」「休憩場所」として人気のスポット。
- 最盛期の年間売上は4億円を超え、エリア内の商業施設としては、屈指の規模を誇る。外部からの来訪者だけでなく、エリア内のお客様も多い。



2.道の駅たかの売上実績推移

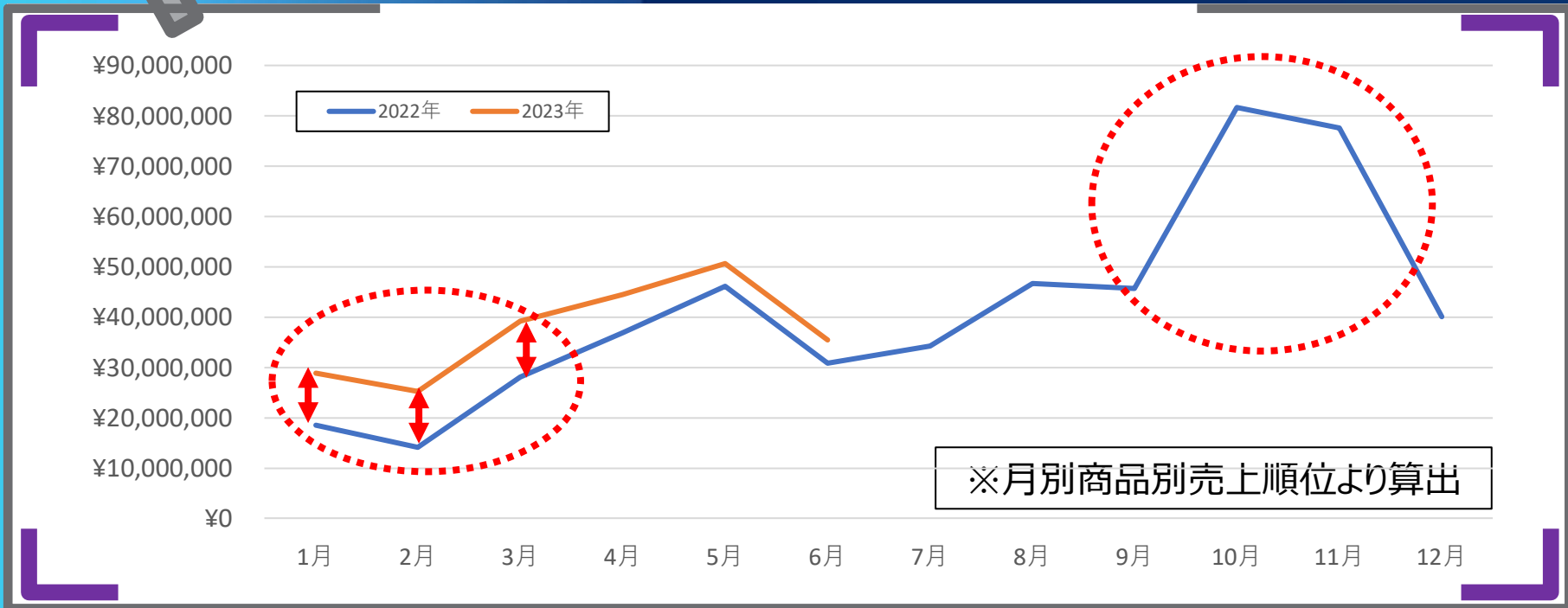
(単位：円)



- ・2019年まで売上は順調に推移していたが、2020年春から感染拡大した新型コロナウイルスの影響で、2020年、2021年と売上は大きく減少している。
- ・新型コロナ感染症の影響としては「道の駅たかの」への主要な来店ルートである「尾道松江道」の利用者（観光客、出張者など）の移動制限や行動自粛などが影響していると思われる。
- ・2022年については売上は急速に回復しており、2023年も前年を上回ると推測

3.2022年と2023年の月別売上推移比較

(単位：円)



※月別商品別売上順位より算出

- 2022年と2023年の上半期の1月～6月の月別売上の推移を比較すると、**全ての月で2023年が前年を上回っている**ことがわかる。特に1月～3月の売上が好調となっている。
- 下半期についても、上半期と同様に前年を上回る売上が期待できるが、前年は10～12月の売上が急激に増加しているため、在庫切れやロスが発生しないように、**発注や在庫管理に注意**が必要。
- 今後も人の往来が活発になることが予測されるので、**相当程度の準備**をしておく必要がある。

4.分析時のカテゴリー分類について

【POSデータの中分類51を大分類23に整理して分析】

- ・青果(野菜,キノコ,豆類など)
- ・果物(りんご,みかん,スイカなど)
- ・鮮魚(魚類,亀など)
- ・精肉(牛肉,豚肉,ジビエなど)
- ・加工肉(ハム,ソーセージなど)
- ・寿司(寿司,ちらし寿司など)
- ・弁当(弁当各種,おむすび,飲食など)
- ・惣菜(揚げ物,焼き物など)
- ・和日配(漬物,豆腐,味噌など)
- ・洋日配(パイ,ジャムなど)
- ・パン(食パン,菓子パンなど)
- ・食品(調味料,餅,蜂蜜など)
- ・酒(ビール,日本酒,焼酎など)
- ・米 (米・,もち米など)
- ・菓子(菓子,もみじ饅頭など土産菓子など)
- ・雑貨(雑貨など)
- ・生花(切り花,球根など)
- ・卵 (卵)
- ・アイス(ジェラート,アイスクリームなど)
- ・ドリンク(飲料など)
- ・うどん,そば(うどん類,そば類)
- ・加工品(加工品)
- ・レジ袋,その他(レジ袋,イベント関係など)

5.大分類23のABC分析比較（2022年-2023年1-6月）

【累積売上割合が0～80%までの品目をA、80～90%の品目をB、90～100%の品目をCに分類】

2022年度		2023年1-6月	
大分類名	ABC判定	大分類名	ABC判定
青果(野菜)	A	洋日配	A
弁当	A	弁当	A
果物	A	青果(野菜)	A
洋日配	A	レジ袋・その他	A
レジ袋・その他	A	食品	A
食品	A	和日配	A
和日配	A	うどん・そば	A
うどん・そば	A	菓子	A
菓子	B	惣菜	A
惣菜	B	果物	B
米	B	ドリンク	B
ドリンク	B	アイス	B
アイス	C	米	B
酒	C	パン	C
パン	C	加工品	C
精肉	C	酒	C
加工品	C	精肉	C
雑貨	C	雑貨	C
生花	C	寿司	C
寿司	C	生花	C
鮮魚	C	鮮魚	C
加工肉	C	加工肉	C

- ・2022年通期と2023年上半期の販売実績を大分類でABC分析して比較すると左の表となる。
- ・Aランクトップの「青果（野菜）」は上半期だけでみると1位から3位に下がっており、「果物」については3位から10位に順位を下げている。「弁当」は2位を維持している。
- ・「食品」「和日配」「うどん・そば」「菓子」は1つつつ順位を上げているが、これは「果物」が上半期ではピークから外れて順位を落としたためであり、これを除外すると、**2022年通期と2023年上半期で大きな違いは見られない。**
- ・下半期については、2022年と類似した売上順位が予測されることから、2022年を参考にした売場づくりや品揃えを行う必要があると思われる。

6. 売上推移とABC分析の比較分析まとめ

a. 売上全体の傾向

- ・新型コロナウイルスが終息し、売上は継続して大幅に回復、増加傾向となっている。
- ・上半期は前年を上回るペースで推移しており、下半期についても前年を上回るペースで売上推移すると思われる。前年を参考にした仕入れなどの対応が必要。

b. 大分類の傾向

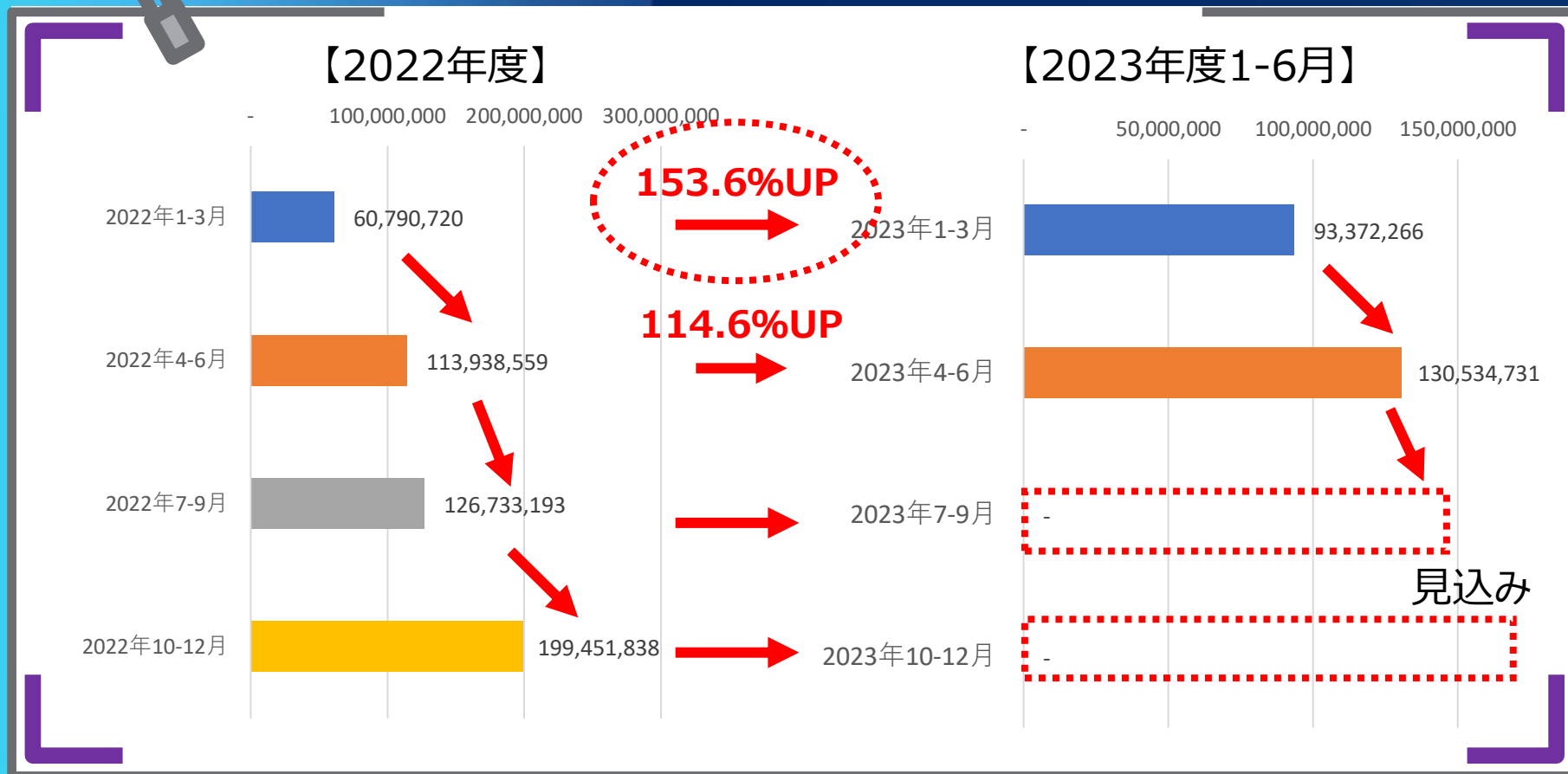
- ・「洋日配」「青果（野菜）」「弁当」が上半期の売上トップ3であり、集客や売上の主力商品となっている。前年通期も同様の傾向であり、重点管理が必要。
- ・「食品」「和日配」「うどん・そば」「菓子」は前年通期から順位変動はあるもののAランク内での変動であり、全体として傾向に大きな違いは見られない。

c. 2022年通期～2023年上半期の販売データからわかる傾向

- ・Aランクに分類される商品群に変動はないが、Aランク内で順位に変動がある。
- ・2022年通期と2023年上半期を比較すると、売上順位上位である「洋日配」と「青果（野菜）」について3段階の順位変動がある。季節変動の可能性が高いが、トレンドが変化している可能性もあるので、販売推移を見守りながらの対応が必要。

7.道の駅たかの四半期別売上高推移比較

(単位：円)



- ・2023年度上半期については、1～3月に前年を大きく上回る153.6%の実績となっている。
- ・雪が多いエリアであることから、雪の降る時期が多く含まれる1～3月の売上が最も少ない
- ・2022年度と比較して、**上半期は大幅に売上が増加**しており、下半期についても相当程度の売上げが期待できる。商品の発注、人員の確保などに注意する必要がある。

8.大分類23のABC分析推移（四半期）

大分類ABC分析の推移（2023年第1四半期・第2四半期）

2023年1-3月		2023年4-6月	
大分類名	ABC判定	大分類名	ABC判定
洋日配	A	洋日配	A
弁当	A	青果(野菜)	A
レジ袋・その他	A	弁当	A
青果(野菜)	A	レジ袋・その他	A
果物	A	食品	A
和日配	A	和日配	A
食品	A	うどん・そば	A
うどん・そば	A	菓子	A
菓子	A	惣菜	A
惣菜	B	ドリンク	B
ドリンク	B	アイス	B
米	B	米	B
酒	C	加工品	C
パン	C	パン	C
精肉	C	精肉	C
アイス	C	果物	C
加工品	C	酒	C
雑貨	C	雑貨	C
寿司	C	寿司	C
生花	C	生花	C
鮮魚	C	加工肉	C
加工肉	C	鮮魚	C

【累積売上割合が0～80%までの品目をA、80～90%の品目をB、90～100%の品目をCに分類】

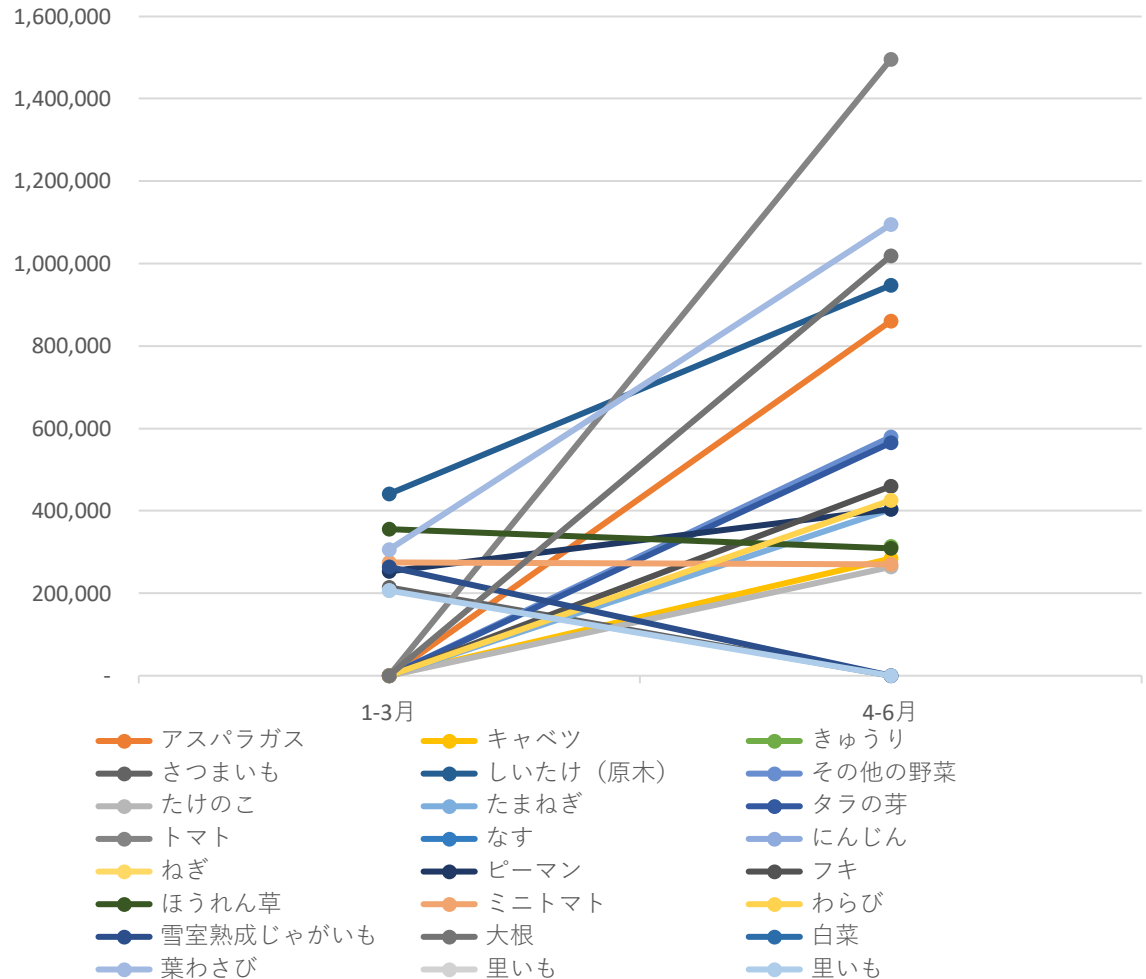
- ・第1四半期、第2四半期で比較して分析するとAランク内で変動がある。
- ・「洋日配」は不動の1位であるが、「弁当」は2位から3位へ順位を下げ、「青果（野菜）」は4位から2位へ順位を上げている。季節性の高い「果物」は5位から16位と大幅に順位を下げている。
- ・果物が順位を下げたため、「食品」「うどん・そば」「菓子」は順位を上げており、「和日配」は6位から変わらない。
- ・「果物」の季節変動を除外すれば、Aランク内の変動であり、売上上位の商品については第1四半期と第2四半期で大きな変化はないと考えられる。

9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

(売上全体でAランク商品のみ)

①青果（野菜）

- 2023年前期の青果分類で売上が高いのは「トマト」であり、4月～6月には他を圧倒する売上を占める。次いで「葉わさび」「しいたけ（原木）」「大根」が多い。
- 「トマト」「大根」は1月～3月の売上は無い。
- 商品の少ない1月～3月は「ほうれん草」「しいたけ（原木）」などの売上増が全体の売上向上に繋がると思われる。



9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

(売上全体でAランク商品のみ 単位：円)

【青果（野菜）のAランク売上】

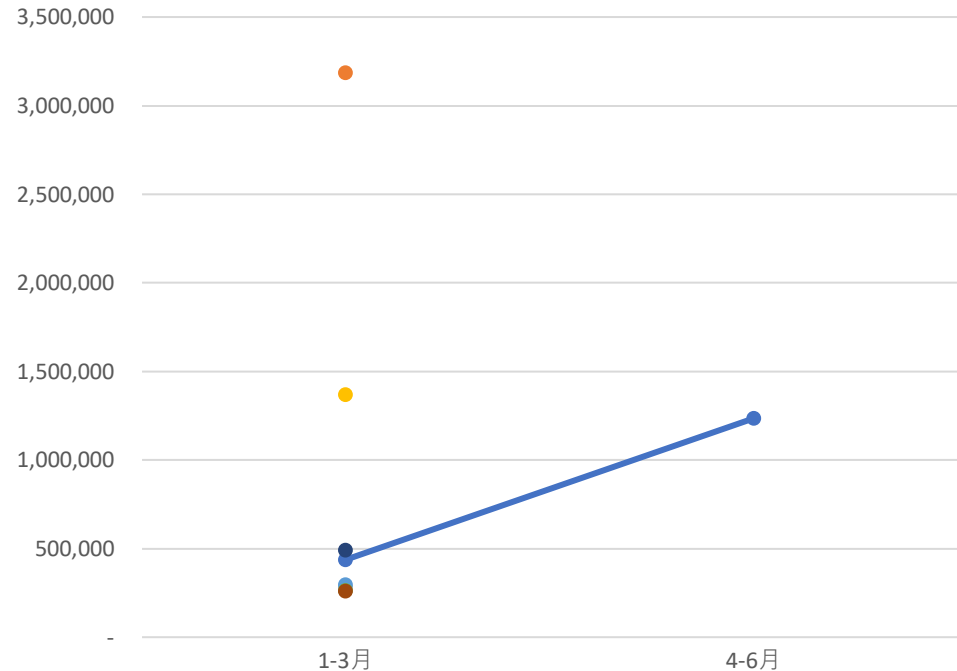
	1-3月	4-6月
アスパラガス	-	860,890
キャベツ	-	283,970
きゅうり	-	313,680
さつまいも	213,980	-
しいたけ（原木）	440,620	947,680
その他の野菜	-	578,680
たけのこ	-	264,790
たまねぎ	-	403,160
タラの芽	-	564,680
トマト	-	1,494,680
なす	-	-
にんじん	271,190	-
ねぎ	-	-
ピーマン	253,530	403,160
フキ	-	459,830
ほうれん草	355,770	309,100
ミニトマト	275,700	270,170
わらび	-	426,250
雪室熟成じゃがいも	263,711	-
大根	-	1,019,450
白菜	-	-
葉わさび	305,500	1,095,140
里いも	206,650	-
里いも	206,650	-

9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

(売上全体でAランク商品のみ 単位：円)

②果物

- ・2023年前期の果物分類で売上が高いのは「りんご」であり、1月～3月に集中している。
- ・次いで「いちご」の売上が多くなっているが、果物で唯一、1月～6月まで安定して売上が発生する商品となっている。
- ・4月～6月は国産果実が少ない時期なので、「びわ」「もも」「メロン」「梅」などを品揃えすることができれば売上増が期待できる。



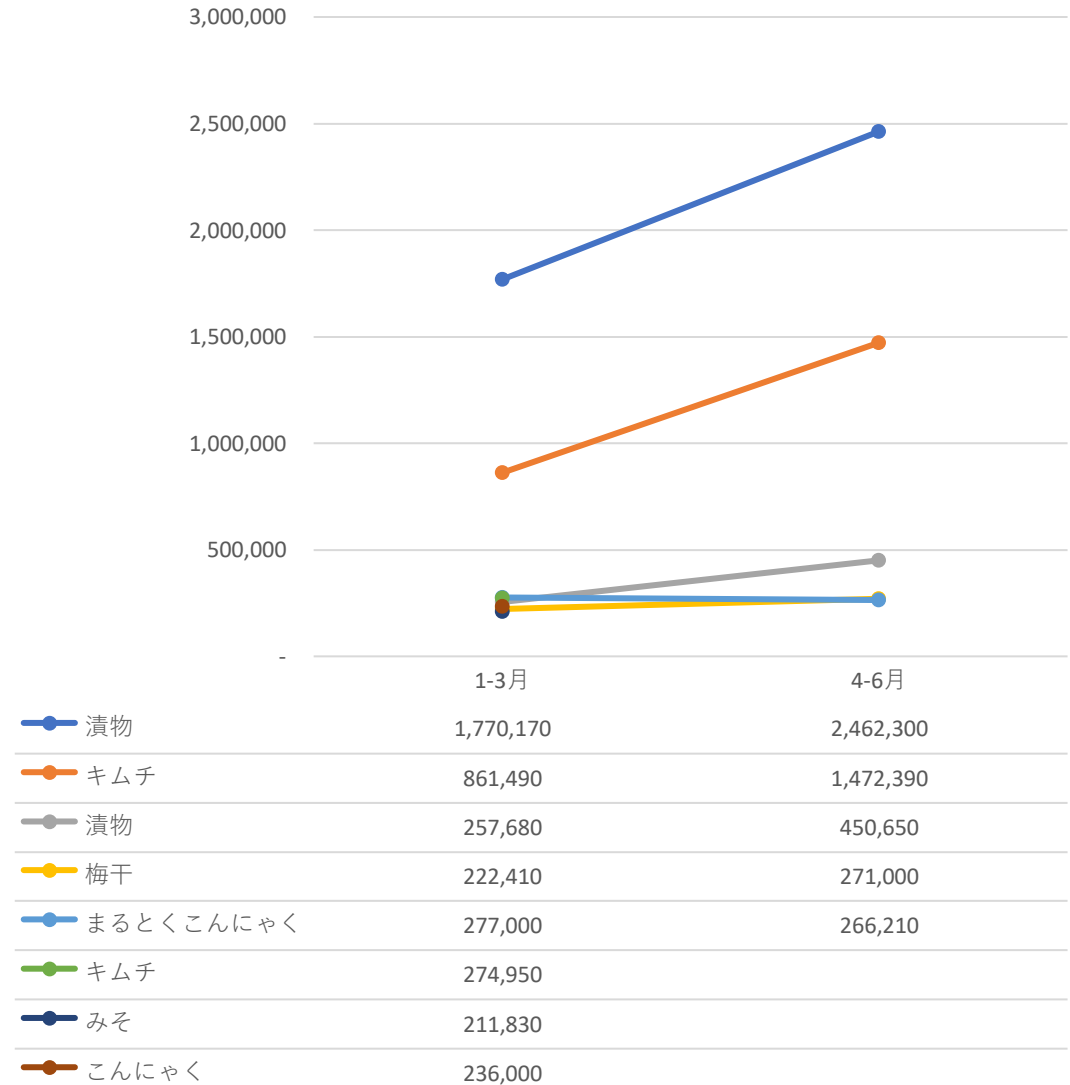
いちご	437,870	1,235,930
サンふじ	3,187,940	
しらぬひ	282,870	
ふじ	1,368,730	
ポンカン	295,480	
りんご	263,100	
りんご (加工用)	491,500	
レモン	260,580	

9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

(売上全体でAランク商品のみ 単位：円)

③和日配

- ・和日配分類では「漬物」の売上が圧倒的。ピークは4月～6月になる。次いで「キムチ」の売上が多くなっており、「漬物」「キムチ」で売上の多くを占めている。
- ・その他、「梅干」「まるごとこんにゃく」「みそ」などの売上有る。
- ・「漬物」「キムチ」は別のJANコードがある。

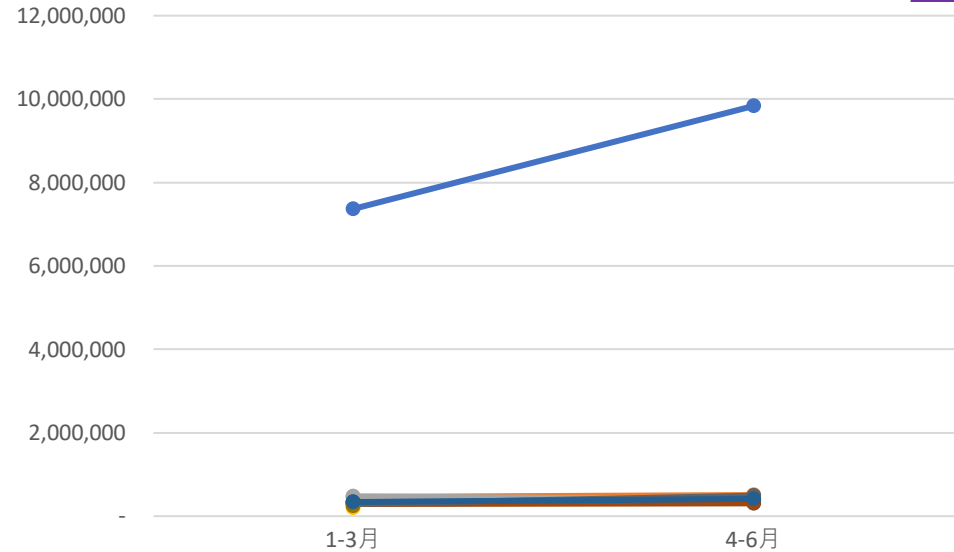


9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

(売上全体でAランク商品のみ 単位：円)

④洋日配

- ・「アップルパイ」が圧倒的な売上を占めており、当分類の売上はアップルパイ中心となっている。
- ・その他の商品としては「チーズ」「フィナンシェ」などがある。
- ・「アップルパイ」は単品、2個入り、大サイズなどがある。



アップルパイ	7,360,530	9,830,570
アップルパイ 2個入	459,960	506,550
アップルパイ 大	474,200	402,000
ドライチーズ燻製	201,000	
バターケーキ(高野り)		304,800
フィナンシェ3個入	319,260	
フィナンシェ5個入り	336,060	360,540
フィナンシェ箱	306,510	310,830
りんごチップス	294,600	481,800
雪室熟成ケーキ	246,842	
米粉シフォンりんご	335,680	408,810

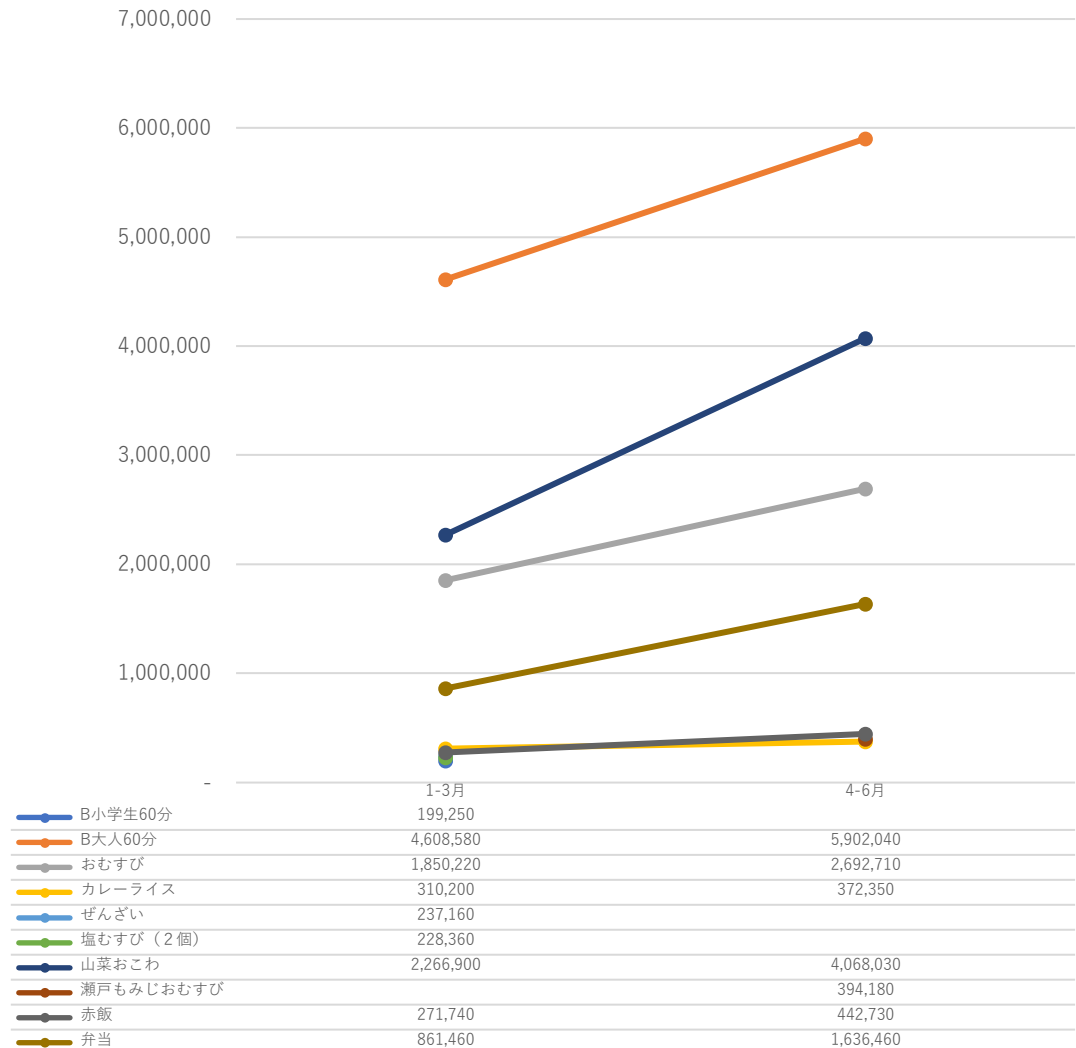
9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

(売上全体でAランク商品のみ 単位：円)

⑤弁当（飲食含む）

・弁当分類については、「大人60分」「山菜おこわ」「おむすび」「弁当」の売上が大半を占めている。いずれも4月～6月の売上が多くなっている。

・「飲食」の単品としては、「カレーライス」の売上が目立つ。



9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

(売上全体でAランク商品のみ 単位：円)

⑥惣菜

- ・惣菜分類については「惣菜」「メンチカツ」の売上が圧倒的な人気商品となっている。「コロッケ」も良く売れており、いずれも4月～6月の売上が多くなっている。
- ・その他、「豚おろしあんかけ」が1月～3月だけ発生しているが30万円の売上があるので、継続して販売することで売上が増が期待できる。



9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

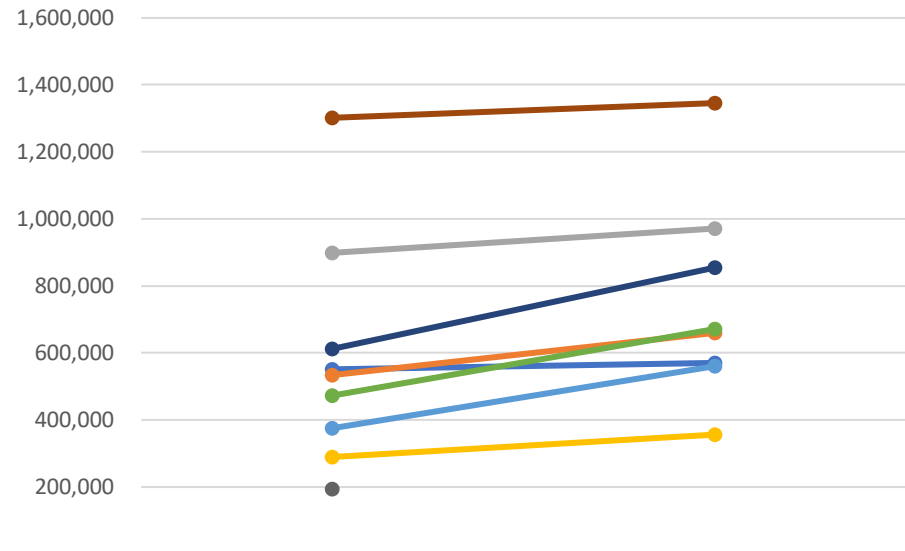
(売上全体でAランク商品のみ 単位：円)

⑦うどん・そば

・「うどん・そば」は飲食部門と思われるが、比較的、多くの商品が売れているなどバランスの良い売上構成となっている。

・中でも「肉うどん」の売上は圧倒的に多く、次いで「スペシャルうどん」「雪室そば」「きつねうどん」「月見うどん」「かけうどん」となっている。

・「肉そば」は1～3月にしか販売実績がない。



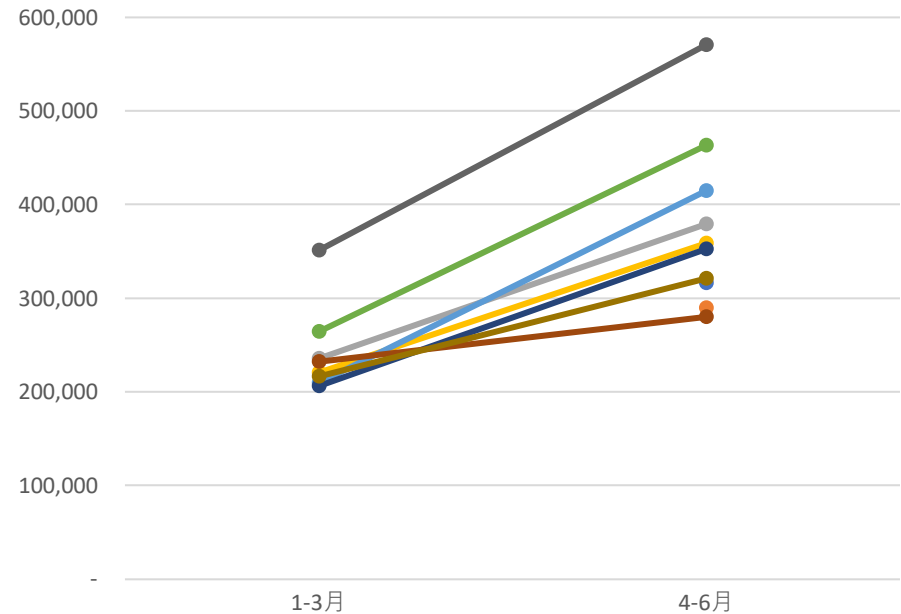
	1-3月	4-6月
かけうどん	551,250	569,940
きつねうどん	534,040	659,320
スペシャルうどん	897,600	970,900
もみじ豚カレーうどん	290,490	355,600
わかめうどん	375,830	560,000
月見うどん	473,720	672,040
雪室そば	611,460	853,990
肉うどん	1,301,520	1,344,700
肉そば	193,520	-

9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

(売上全体でAランク商品のみ 単位：円)

⑧菓子

- 菓子分類は「乳団子」「四季もみじ」「田總羊羹」の売上が多い。
- 「ヒバゴンのたまご」「もちもちもみじ」は4月～6月しか売上が発生していない。
- 量目の異なるバージョンがある商品については、比較的、量目の少ない商品の方が売上が高くなっている。



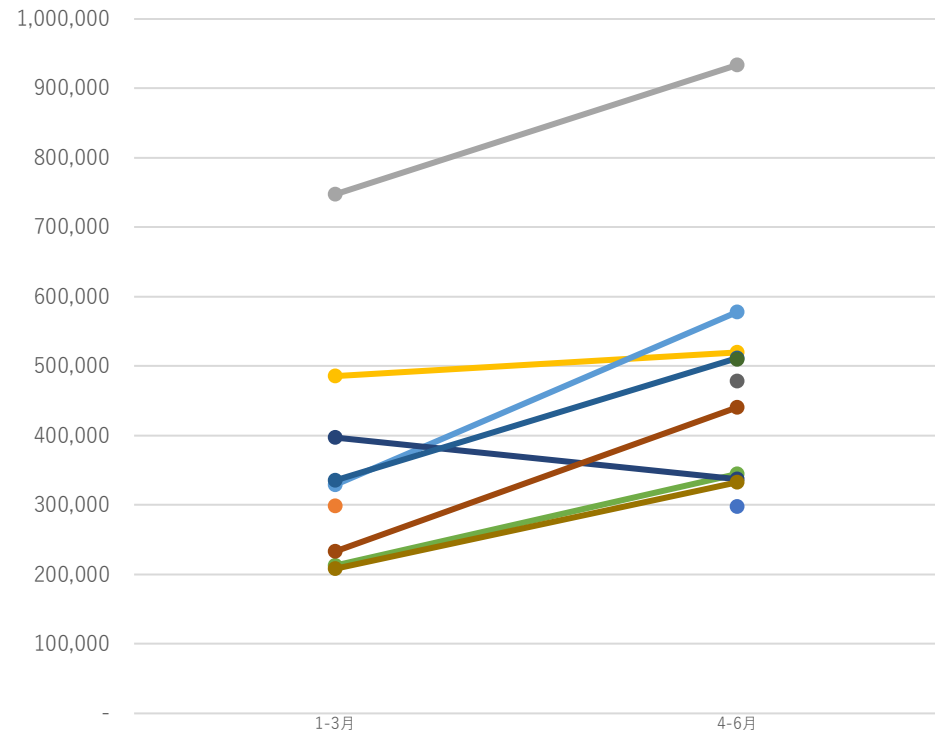
ヒバゴンのたまご 5		316,550
もちもちもみじ 8		289,440
四季もみじ 1 6 個	235,520	379,040
四季もみじ 2 4 個	220,800	358,800
四季もみじ 8 個入り	209,760	414,920
田總羊羹	264,040	463,110
乳団子 (1 5 個入)	206,080	352,360
乳団子 (2 5 個入)	232,000	279,850
乳団子 (9 個入箱)	351,120	570,640
乳団子三色セット 1 5	216,200	321,080

9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

(売上全体でAランク商品のみ 単位：円)

⑨食品

- 現在の分類の内訳には、「もち」「和菓子」「たまご」などが含まれる。
- 目立つ商品としては「そふとかりんとう」が4月～6月に大幅に売上が上がっているほか、「もち」の売上は安定して推移している。
- その他、「よもぎのかしわもち」「かしわもち」なども4月～6月で売上が大き上がっている。



	1-3月	4-6月
おはぎ	329,150	577,380
かきもち	298,090	297,460
そふと かりんとう	747,360	933,840
もち	485,590	519,680
よもぎのかしわもち	329,150	577,380
よもぎ柏もち	212,900	344,550
桜もち (5ヶ入)	397,380	337,250
焼餅	232,760	440,230
田舎づくり かしわ餅	208,480	478,150
柏もち (3ヶ入)	208,480	332,880
柏もち (5ヶ入)	335,470	511,090
柏餅	212,900	509,710

9.大分類Aランクカテゴリーの内訳推移

⑩2023年前期の販売分析のまとめ

a.売上全体の傾向

- ・4月～6月の方が1月～3月よりも売上が多く、**集客が多い時期**となっている。
- ・1月～3月は集客減に加え、野菜を中心に**品揃えが少ない**ことが影響している。

b.大分類の傾向と改善のアイデア

- ・雪が多い1月～3月はどの分類も売上が大きく下がることに加え、野菜を中心に品揃えが少ないことが全体の売上に大きく影響していると考えられる。
- ・野菜が少ない1月～3月についてはそれをカバーできる売上対策を検討するとともに、4月～6月に売上の下がる果物については、新たな果物を調達するため、地域内で**「もも」「メロン」「びわ」「梅」などの作付けを依頼**するなどの方法も考えられる。

c.大分類Aランクの内訳の傾向と改善のアイデア

- ・1月～3月に全体の売上が少ない一方で、**売上の低いこの時期は逆に伸びしろ**もあるので、**冬向けの商品開発や品揃え拡大**などに取り組むことで改善もが期待できる。
- ・「洋日配」は「アップルパイ」の売上に依存しているが、その他の商品が弱い。りんごとシーズンが異なり、**人気の高い「ぶどう」などを使った商品開発**が効果的と思われる。